

市民エネルギー生駒「市民共同発電所1号機」概要

平成26年3月28日
一般社団法人 市民エネルギー生駒

1、運営主体

『一般社団法人 市民エネルギー生駒』

生駒市環境基本計画推進会議 エネルギー環境部会メンバーが中心となり、本事業の実施のため設立した法人

2、事業の目的

再生可能エネルギーの市民共同出資による普及を目的に、「エコパーク 21」施設棟（南棟）の屋根を生駒市から20年間借用し太陽光発電設備を設置する。

3、設備の概要

設備容量 合計53.235kW（南面224枚、東面49枚 計273枚 パネル構成）

シャープ 多結晶モジュール（ND195-CA）195Wを273枚設置する

シャープ パワコンディショナー（JH-CD3P 5.5kW）9台設置する

低圧連係では50kW級が最大であり、経済的規模になっている。

予想発電量

年間予想発電量 初年度53,330kWh（年間発電逓減率 0.7%想定している）

設備当たりの発電量 約1,000kWh/kW

投資額

1,700万円（太陽光発電設備1,500万円、付帯費用200万円）

4、売電計画

国の固定価格買取制度により、関西電力が20年間固定価格で買い取る契約。

平成25年度の買取価格36円/kWh（消費税別）が20年間適用される。

初年度売電予想約190万円である。

5、施工会社の選定

生駒市の産業用太陽光発電の事業者を対象にプロポーザル方式で公募した結果、三協（商号エコパイン）の提案の採用を決定し、同社に施工依頼した。

システムメーカーはシャープであり、シャープのシステム保証、施工保証（雨漏り等）が15年間あり、他のメーカーより有利と評価した。

6、関電との連係工事

平成26年3月27日完了。連係運転可能状況になり売電開始する予定である。

7、市民ファンド投資者募集状況

出資者募集には第2種金融取引の資格が必要なため、市民ファンドでの実績のある「トランスバリュー信託株式会社」に委託した。

投資1口10万円で170口 1,700万円調達。

配当1.5%、20年償還条件で、本年1月14日から2月28日間での間募集し、目標の投資金額の募集を達成した。応募170口のうち約80%は生駒市民で構成されている。

8、課題

①市民発電所1号機として安定運営を実現する。又この経験実績を今後の太陽光発電所の新規計画推進に役立てたい。

②20年償還後の設備は、生駒市に無償譲渡する等有効利用案を提案中である。

(以上)